

令和6年8月20日

福津市議会

議長 高山賢二様

議会広報調査特別委員会

委員長 福井 崇郎

議会広報調査特別委員会報告書

本委員会は行政視察を実施しましたので、下記のとおり報告いたします。

記

1. 研修先及び研修内容

- (1) 広島県呉市議会 議会だよりの編集・発行について
議会だよりのリニューアルの経緯と特集の工夫を調査した。
- (2) 滋賀県大津市議会 議会だよりの編集・発行について
広報広聴ビジョンアクションプランのもとでの議会だよりのリニューアル内容と成果について調査した。

2. 期日

- (1) 令和6年7月17日（水）
- (2) 令和6年7月18日（木）

3. 調査結果

(1) 広島県呉市議会

呉市議会広報委員会の位置づけは、呉市議会基本条例の「議会の活動について、市民に対し、分かりやすく周知しなければならない」との規定により、会議規則に基づき設置される協議の場で、各会派から選出された各1名ずつで構成する原則非公開の会議である。

また、広報委員会規程で、呉市議会の活動状況を市民に広報し、「市民に開かれた議会」「市民にわかりやすい議会」に資することを広報委員会の目的としている。

特集テーマは、各委員が会派で協議して提案し、広報委員会で検討して決定する。前年度12月開催の広報委員会で、次年度の4回分のテーマを決定している。取材は委員から選出された2名と事務局職員で行い、委

員は感想も執筆する。特集内容の選定コンセプトは、議決した議案の追跡調査を行い、市民の知りたいニーズを追求することであり、若年層にも手に取ってもらえるよう、写真やイラストを多用してビジュアル化を図り、見る広報紙を意識している。

委員会審査や議案審議のページに掲載する議案の選定は、各会派で3項目を選定し、広報委員会で協議し決定している。

令和4年8月号のリニューアルの際は、専門家に助言を求めた。その中で、「①若い人をターゲットにするなら表紙のローマ字使用、②表紙は脳裏に焼き付く写真、③議会が伝えたいことではなく、相手が知りたい情報をわかりやすく、④伝えたいことイコール知りたいことではない、⑤伝えるのではなく伝わる広報紙をめざす」など、多くの助言を受けて、リニューアルに反映させた。

また、リニューアル後から裏表紙にチーム議会 PLUS のコーナーを新設し、市内小学生の将来の夢を掲載している。掲載する小学生の選定は学校に依頼し、年4人に寄稿してもらっている。

その結果、呉市議会だよりは、中核市議会議長会議会報コンクールの最優秀賞を2回、優秀賞を1回受賞するなど、洗練された広報紙へと変貌している。

(2) 滋賀県大津市議会

大津市議会では、議会だよりのリニューアルに際して、従来の紙媒体ありきの検証ではなく、SNSやテレビなども議会を市民に伝えるためのツールと考えた。これからの時代に議会の情報をどこに届けるのかといった観点から、エビデンスに基づき、議会広報を広くとらえた広報広聴ビジョンアクションプランを策定することからスタートした。

そのために、まずは現状把握として、無作為抽出した13歳以上の市民3,000人に対して、アンケート調査を実施した。その結果からの課題認識と、専門家による研修会を実施し、広報の基礎知識を取得し、広報と広聴の意義や役割を確認した。その次に、戦略と成果指標を設けたビジョンを設け、そのビジョンを具現化するアクションプランを策定している。令和4年から8年までを計画期間とし、紙面リニューアル、市民参画型企画、メディアミックスの充実、配置箇所の充実、配布方法の調査研究など5つの内容を進めている。

議会だよりのリニューアルに向けた取り組みとして、意見交換会での高校生の意見の集約や広報広聴委員会委員によるグループワークでの意見聴取を行い、広報クリニックや専門家による広報研修を行った。コンセプトを「届く、伝わる、つながる」としてリニューアルに取り組んできた。

リニューアルの改善ポイントとしては、若い人が手に取りたくなるように写真やイラストを増やしたデザイン、読みやすくなるようにレイアウト

を横書きにした。また、文字数が多い紙面から文字数を減らし、議会だよりに掲載できない情報は、二次元コードを活用し、ホームページで見ってもらうように工夫している。

一般質問は、質問事項のみを掲載し、内容はホームページの動画へ二次元コードで誘導するように工夫をしている。さらに、一般質問について1分間の「議員のひとこと解説」を撮影して動画配信サイトで配信し、二次元コードを掲載している。紙面とホームページや動画配信サイトなど、複数のメディアを併せることで、多様なニーズに届くようになっている。動画を撮るために、カメラやライト、集音マイクといった必要な機材も取り揃えている。

議会と市民をつなぐ役割として、市民が登場する特集ページを設け、双方向コミュニケーションの創出をはかっている。特に巻末ページでは、市民の笑顔写真を募集しており、子どもやペットの数多くの応募が寄せられている。また特集などに関わった「議員のヒトコト」を掲載することで、議員の顔が見えるようにしている。

その結果、令和5年度に近畿市町村広報紙コンクールの優良賞を受賞している。

4. 視察研修を終えて

(1) 広島県呉市議会

小学生や高校生など多くの若い世代の掲載や、表紙の写真やタイトルにインパクトを持たせるなどの若者をターゲットとした取り組みも参考になった。今後も市内在住の小中高生に紙面に登場してもらえるように紙面の工夫が必要である。

伝えたいことイコール知りたいことではない等の視点は、今後の本市での編集方針として検討していくべきではないかと考える。

また、市民が知りたいと思われる情報を優先した結果、賛否表を掲載していない。限られた紙面を有効活用するために、一般的な枠にとらわれない試行錯誤を今後も進めていく必要性を感じた。

呉市議会では、令和5年度に使用する紙質を変更して軽量化を図り、年間100万円の経費削減と配布の負担軽減をしたことは、参考にしたい。

(2) 滋賀県大津市議会

大津市議会では現状を把握するためのアンケート調査、専門家による研修会を行うなど原点に立ち返ってリニューアルに取り組んできた。本市でもターゲットを設定してリニューアルを行って1年が経つため、アンケート調査などで現状把握を行う必要がある。

また、大津市議会では広報広聴ビジョンの作成を行っている。本市も現在検討中の議会基本条例との関係も整理して、ビジョンやアクションプラ

ンの作成を検討していくことも大切である。

市民を巻き込んだ特集や、様々なメディアを活用して広範囲に届くように工夫されてきたこと、広報編集や動画配信のための備品が整っていることは、素晴らしいと感じた。本市とは人口規模等さまざまな違いもあるが、環境整備などできることから導入していくことが大切である。また、紙面だけでなく、SNSなどと連動することも検討していく必要がある。

今回の事例は、広報広聴ビジョンに沿って積極的に拡張している一方で、一般質問の簡略化など大胆に合理化している部分もあった。取捨選択を判断することの重要性を感じた。今後、何を行うのかを整理して、本市の議会だよりの質を担保できるよう人員確保、予算確保が必要と考えるが、限られた時間や人員の中で、バランスを取りながら取り組む事がますます必要であると考ええる。

本市では、市民と議会のいい関係を作る、議員による手作りの議会だよりをめざしている。今後も、調査研究を重ねてより良いものにしていきたい。